

## 分類・系統学

東南アジアの *Dugesia* 属 (淡水棲三岐腸類) の染色体と分類. I. 分類学的・核学的研究の現状

川勝正治(藤女子大), 沖岩四郎, 田村幸子, 山吉孝雄 (大阪公衛研)

Karyological and taxonomic studies of the *Dugesia* species in Southeast Asia. I. Review of the previous studies

MASAHARU KAWAKATSU, IWASHIRO OKI, SACHIKO TAMURA, TAKAO YAMAYOSHI

淡水棲三岐腸類は現在 390 種類 (32~35属) あまりが記載・報告されており, うち *Dugesia* 属は79種類ほどで, 全体の20%強に達している。東南アジアに分布する本属の種類の大部分は "*Dugesia gonocephala* 群" に属し, 耳葉の発達は中等度, 陰茎基部腔と射精管とが隔壁によって分離しているのが特徴である。既知種は16種類で次の4群を区別できる。

- 1). 陰茎は相称形, 筋肉性腺器官を持つ: *D. anandalei*, *D. iranica*, *D. bactriana*, *D. izuensis*.
- 2). 陰茎は不相称形, 陰茎腔に隔壁を持つ: *D. novaguineana*, *D. borneana*, *D. indica*, *D. nannophallus*, *D. andamanensis*, *D. burmaensis*.
- 3). 陰茎は不相称形, 基部に褶襞があり, 陰茎腔に隔壁を持つ: *D. hymanae*, *D. batuensis*, *D. indonesiana*, *D. krishnaswamyi*, *D. lindbergi*.
- 4). 陰茎は不相称形, 基部に褶襞があるものとないうちがあり, 陰茎腔に隔壁を持つ: *D. japonica* (*D. japonica japonica* と *D. japonica ryukyuenensis*).

東南アジアの各地から生殖個体が得られていない個体群も記録されている。現在の分類学では, 咽頭筋肉層を組織学的に検すれば科は確定できるが, 生殖器官の形態と構造を検しない限り, 属・種の同定は不能である。前記の種類中で染色体数と核型が判明しているのは *D. japonica* ( $n=8$ ,  $2n=16$ ,  $3n=24$ ;  $n=7$ ,  $2n=14$ ,  $3n=21$ ) の他, *D. indonesiana* ( $3n=24$ ) と *D. lindbergi* (インド人研究者からの私信による) だけである。しかし, 未同定種の再生芽細胞で染色体分析を行えば, 少なくとも属の確定と, 近縁種間の系統関係を推定することができる。即ち, 染色体分析は分類学的・系統学的に有用な手段であるといえる。

東南アジアの *Dugesia* 属 (淡水棲三岐腸類) の染色体と分類. II. 日本産ナミウズムシの染色体

田村幸子, 山吉孝雄, 沖岩四郎 (大阪公衛研), 村山 均 (新潟県柏崎農高), 川勝正治 (藤女子大)

Karyological and taxonomic studies of the *Dugesia* species in Southeast Asia. II. Chromosomes of *Dugesia japonica* from Japan

SACHIKO TAMURA, TAKAO YAMAYOSHI, IWASHIRO OKI, MASAHARU KAWAKATSU

日本各地から採集したナミウズムシ *Dugesia japonica japonica* の染色体を押しつぶし法で調べた。本冠名亜種は極東地域に広く分布し (台湾の山地部, 中国の中部, および琉球と奄美諸島を除く), その染色体数は  $2n=16$  を基本としているが, 産地によって倍数性や異数性を示すものがある。異数性は韓国産 (牛耳洞) の虫についてだけ知られていたが, 今回の調査で日本産の虫にも見出された。今回は柏崎市河内, 岐阜市長良, 京都市貴船, 神戸市須磨, 愛媛県伊予郡松前町の5地点の無性個体を材料として用いた。

柏崎産は, 2匹が  $2n$  と  $3n$  の混在個体, 10匹が染色体数25本 (端部, もしくは次端部動原型染色体を0~1個含む) の個体, 1匹が26本と27本の混在個体であった。長良産は, 5匹とも  $2n$  と  $3n$  の混在個体であった。貴船産は, 2匹が  $2n$  の個体, 3匹が  $2n$  と  $3n$  の混在個体, 5匹が25本 (端部, もしくは次端部動原型染色体を0~3個含む), および0~4個の微小な染色体を持つ個体であった。須磨産は, 8匹が25本および0~1個の微小な染色体を持つ個体, 3匹が25本 (端部動原型染色体を1個含む) と26本 (次端部動原型染色体を2~3個含む) の混在個体であった。愛媛松前産は, 2匹とも  $2n=16$  の個体であった。

日本産のナミウズムシは, その産地によっても, あるいは同じ場所から採集した虫においてさえも, 核のばらつきが認められる。ナミウズムシには,  $2n$  や,  $3n$  や,  $2n$  と  $3n$  との混在の虫の他に, 高異数性 (polysomy) の虫も検出された。上記の高異数性については, 過剰染色体の数と形にばらつきがみられ, 同一個体内においてさえも, 種々の差異がみられた。